延子ちゃん"こんにちは"

お宮詣り（男兒三十二日目）

四月二十八日
晴天曇天雨
特別記事

今日は晴で出が家に居るので
赤ちゃんはちつとも落着いて
ねてゐない。
「和かつて」「和かだつこ」で
過ごすこの赤ちゃんの着物は頭上の
方に来てアーあ。　そうかと思ひながらくわをしはじめ
る。とうくおかあさんは床をこげて起きてアーた
思のるから今日がお宮まいりとゆふところ　せのるは
ずだ。　それどころの食べはお母さんの体が落着
かないから出来ないこうけれども
今日既に屋いろう　鰹魚の男節をかつて　お母さん
に差上げた　勝胱が大へんかるいこうで
早くお母さんの体がよくなる　お宮参りが出来ると
い、わね。

この宮詣りと申しますのは、赤ちゃんが産れてから始めて外出してその土地の産土神に登詣する家庭祝祭中の一つです。宮今では一般に祝祭でしたら生後三十二日目、これを行ふことになつてゐますが、郷土その地方々々の慣習によつて相違のあることで、関西地方では百日目に、宮中皇子にあつては五十日目にこれを行はせられます。

既日は赤ちゃんへ産衣で新調しておいた産衣を着けさせ、それを乳母なり産母なりが抱き、他に部屋なり家人が抱つて神社へ登詣します。産衣は丈二尺五寸位の綿織物、又は無地紋付地に裏に絹を用ひた相伝の下着を重ねます。この産衣は、生母の手方から贈られるのが一般の慣例です。神社に詣り月日等を認めてこれを神主に示し帯刀料若干を納めて神前の火を請ますのです。尚注意点は親戚知友の宅を訪問するのが普通ですが、これらは勿論乳母の健康状態や、産婦時間などとの関係次第で中止をし、延期もすべきでありまして、絶対にかうしたことに拘はらず

生後二ヶ月目の育児豫定表

昭和十年三月廿八日午前三時誕生出産
明三日お七夜に和和茂にてうつす
和歌山県海草郡　北島藤